共生社会の実現に向けた地域と建築空間のデザイン

研究内容

高齢者、障害者、子ども等、さまざまな立場の人々が積極的に参画できる社会が求められています。その実現のために、福祉・ユニバーサルデザインの視点からのまちづくりと地域社会と繋がる建築空間のデザインプロセスや手法について探求しています。

具体的な研究内容としては、高齢者施設の平面計画の研究、幼老複合施設の研究、住み続けられる住宅とまちの研究などです。研究方法としては、現地での行動観察調査を中心とし、アンケート、インタビュー調査によって現場の声を聞きます。声を発することができない人々の立場からものを考え、計画に反映していくことが、共生社会において求められていると考えています。

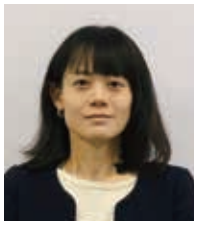
地域・産学連携の可能性

本研究室が中心的に実施している行動観察調査は、地域に出向かなければ実施することはできません。また、直接見て感じることや考えることを大切にしています。このため、地域との連携は欠かせないものと考えています。実際に進行している研究においては、自治体に協力していただいているものもあれば、施設の職員や地域住民と協働しながら進めているものもあります。

今後も仙台から、ここでしかできない創造的な地域づくり、空間づくりをするために、学生たちと刺激し合いながら研究を進めていきたいと考えています。

このテーマに関連するSDGs開発目標

デザイン



ライフデザイン学部 生活デザイン学科　建築計画、建築設計

谷本 裕香子 TANIMOTO Yukako

准教授、博士（人間科学）

執筆論文

谷本裕香子, 佐藤将之：特別養護老人ホームにおける入居者の重度化対応に伴う直接介護と共用空間との関係. 日本建築学会計画系論文集, 第 84 巻 第 755 号, 23-32 頁, 2019.1

KeyWord　高齢者・障害者の居住環境